

日本作業療法士協会 海外研修助成制度

実績報告書

訪問日程：2024年9月9日(月)～9月13日(金)

施設名：Melbourne Hand Rehab Richmond, Ivanhoe, Essendon North

所在地：1/2A Bridge Rd, Richmond VIC 3121(Richmond clinic)

氏名：藤井 裕康

所属：福山市民病院

会員番号：45950

所属士会：岡山県

1. 施設訪問の内容

Melbourne Hand Rehab は Melbourne の各地に 12 のクリニックをもつ大手のハンドセラピストに特化したクリニックである。創業から 30 年弱になり、Melbourne の中でも老舗にあたる。所属するセラピストは 30 名弱で、オーストラリア人のみならず、中国やマレーシアなどのアジア圏、アフリカ出身のセラピストも在籍しており多国籍のチームで診療にあたっている。各施設には 3～5 名の理学療法士、作業療法士が在籍し、1 日に各セラピストが 10～15 名の患者に対応している。患者の年齢層は小児から高齢者まで様々で、疾患も橈骨遠位端骨折や手指骨折など手外科医のいる private clinic(私立の医院)で手術を受けた後の患者であったり、General practitioner(総合診療医)からの紹介による de Quervain tenosynovitis や Carpal Tunnel Syndrome や Chronic pain など多種多様なものがあつた。またオーストラリアの Work Safe という労働者の権利や健康を保護する公的機関があり、職業関連疾患(Tenosynovitis 等)をもつ患者はこの制度を用いて、Melbourne Hand Rehab での治療を受けられていた。介入も対面だけでなくオンラインでの遠隔での介入も行っている。この取り組みはコロナ以降から始まった取り組みであり、感染症の問題だけではなく、遠方であることや仕事の都合のために Clinic の訪問が困難なケースに対して実施されている。更に、関節症やリュウマチ、産後女性の手の痛みなどの知識の頒布も行い、地域の患者の病態コントロールなどに貢献している。例えば産後女性への手の痛みは無料のオンラインウェビナーを開催しており、手関節周囲の解剖学から、痛みの予防のための講義などを行っている。このように診療において、様々な取り組みを Flexibility に行っており、積極的なクリニックである。

「Director である Karen Fitt は創業以来、ハンドセラピストの育成に注力している。Melbourne Hand Rehab 内には Hand Faculty という教育機関があり、1 年間のフェローシッププログラムを提供しており世界各国からフェローを受け入れている。1 年を通じた教育プログラムにて解剖学や運動学などの基本的知識からスプリント作製などを体系的に学ぶことができる。この功績が認められ、Karen は今年の Australia Hand Therapy conference にて Award を受

賞している。

2. 施設訪問の成果

今回の訪問で得られた成果としては、「社会背景に応じたオーストラリアと日本のクリニックでの作業療法の違いをもとに日々の臨床へいかに **Adaptation** をするかの示唆」「**Telehealth Rehabilitation** の可能性の発見」である。

最初の成果について述べる前に、オーストラリアの **Health Care System** を共有する。オーストラリアで医療サービスを受けるために、まず、どの施設に行くかが選択される。主に二つあり、**Public** と **Private** である。**Public** は日本でいう公的医療保険であり、保険診療では患者は医療費を払う必要がない。主に公的医療機関での受診となる。良い点としては医療費が無料であること、私に教示くださった先生によると悪い点は待期期間がかなり長いことで、骨折後の手術を受けるために数か月待つはよくあることであるとのことであった。**Private** は個人の医師やセラピストが開業している施設である。良い点としては、待ち時間が短く対応が早いこと、悪い点としては使用する保険や制度(例えば **Worksafe** などの労働者の保険等)により一部または全額の費用がかかることであるとのことであった。**Melbourne Hand Rehab** に来ていた患者は保険にもよるが、凡そ、40分のセッションで日本円にして約 10,000 円～15,000 円の医療費を支払っているとのことであった。また患者は最初は **GP(general Practitioner)**、日本でいう総合診療医を受診する。その後、専門の診療科(例えば整形外科や **Melbourne Hand Rehab** のような専門機関)に紹介する。オーストラリアには上記のような社会背景がある。

そこで、私が驚いた点としてはリハビリテーション評価やプログラムの構成の違いである。**Melbourne Hand Rehab** での介入は、例えば 40 分のセッションであれば、症状などを尋ねる面接、それに触診や **GP** での診断に応じた疾患別特異的な評価(例えば手根管症候群なら感覚評価や **Nerve Tension Test**)を行い、病態を把握した上で、今回の疾患はどのようなもので、どういう回復過程をたどり、患者は今どういう状態で、運動はこれらが必要であるという病態生理から運動療法の解説までを懇切丁寧に説明し、患者とセラピストの共通理解を促していた。その上で **Home Exercise** を指導し、患者ごとの自主練習を **Physitrack** という **System** を用いて患者ごとにスマートフォンやタブレットなどのデバイスにメールで送信している。あとは患者が自宅にてメールで送られた自主練習動画を見ながら実践し、行った記録(どの程度の回数をしたか、どの程度痛みがあったかなど)を入力し、数週間後に **Melbourne Hand Rehab** で再度フォローするという形であった。つまり、セラピストは面接や評価で正確に病態を把握し、**Home Exercise** や **Management** 方法を伝えるのが主であった。印象としては面接、評価が 6 割、指導が 3 割、訓練室での自動運動や筋力強化運動(必要に応じて他動的徒手療法)が 1 割の割合に感じた。私の理解であるが、日本ではリハビリテーション専門職のイメージとしては関節可動域訓練をしている絵や訓練をしている絵がイメージされやすいかと感じる。しかし、**Melbourne Hand Rehab** においては相談員のような印象を受けた。

特に印象的だったのは、ある見学させてくださった作業療法士の先生が""Therapist has responsibility for patient's recovery. But patient also has responsibility to own recovery""の言葉であった。つまり患者にも自身の回復の責任があるということであった。いかに患者自身が回復に能動的であるかを重視していて、そのための多くの指導やアプリなどのシステムを用いたアクセスしやすいツールを用いているようであった。日本とは医療保険などの背景が異なるため全てを適応することは難しいと思われるが、患者の能動的な姿勢を促すための病態説明や運動指導、自主練習を促す姿勢、またアプリなどのシステムを用いる検討など本邦でも Adaptation できる示唆があるのではないかと考える。

2点目の「Telehealth Rehabilitation の可能性の発見」について述べる。Melbourne Hand Rehab では COVID-19 Pandemic の早期からビデオ通話を用いた遠隔でのサービスを行っている。Pandemic が収束した現在においても、遠隔地にお住まいでクリニックまで訪問できない方や、仕事や家庭の都合で訪問時間が確保できない方のニーズがあることから継続してサービスを提供している。対面と異なり、触診や、徒手検査法、他動的な運動が困難な点がデメリットとして考えられ、私も見学をしながら、視診と言葉のみでアプローチするのは難しいと感じていた。しかし、見学させてくださった先生からは、例えば運動を続けていて疼痛が増悪しているなら、それを中止して別の運動に変更することもできるし、徒手検査以外にも視覚でも評価できる項目はたくさんあり、触ることが全てではないと言われ、Telehealth Rehabilitation の有効性を教示くださいました。昨今、高齢化を進む本邦において、地域での過疎地や遠隔地の医療が課題となっており、遠隔での Telehealth Rehabilitation は、過疎地や遠隔地の患者の医療提供に貢献できる可能性があるのではないかと考える。加え、今後、Telehealth Rehabilitation が発展したときに備え、私たちは、視覚的な評価や言語での教示など直接触れることなく行える評価や介入技術の研鑽も必要ではないかと考えた。"

3. 訪問で得られた資料



Melbourne Hand Rehab Richmond clinic の外観

築 100 年弱経過した伝統的な建築物を改装したクリニックで、外観や内観の装飾品から現地の歴史を感じることができた。Hand Faculty の教育施設の中核であり、Hand Therapy Fellowship の講義室なども完備されている。



Melbourne Hand Rehab Ivanhoe clinic の外観

Ivanhoe というメルボルン郊外にあるクリニック。入口は狭く感じるが奥行は広く7つのセラピールームを有するメルボルン北東部の拠点となるクリニックである



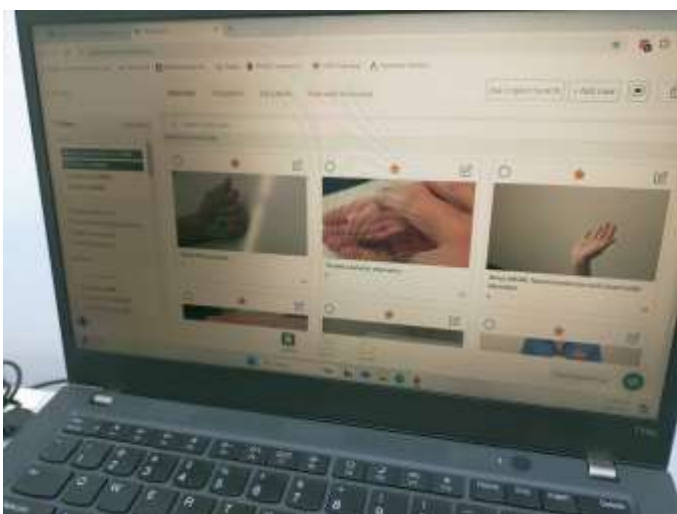
Melbourne Hand Rehab North Essendon clinic の外観

メルボルンの郊外にあるクリニック。自宅として使われていたものを改装しクリニックとしている。6つのセラピールームを有するメルボルンの北西部の拠点となるクリニックである。



セラピールームの内観

全室完全個室となっており、各人のプライバシーが保たれている。各室に運動療法器具や道具が完備されている。部屋によってはスプリント作製環境も整っている。



Physitrack のセラピスト画面

自主訓練や管理に関する動画が数千本あり、それぞれの患者ごとに運動療法プログラムを選択するツールである。患者は実施状況や運動時の疼痛等の情報も入力できるようになっており、セラピストは自宅での運動状況を用意に確認できる。



産前産後女性への疼痛予防のフリーウェビナーのフライヤー

疼痛予防に関する情報をフライヤーにも掲載し、地域住民への知識の情報頒布を行っている。



Director Karen Fitt 氏 (オーストラリアハンドセラピー協会前会長)と.



研究のプレゼンテーション(自身の研究を発表し意見交換もしました)
臨床の見学のみならず、自身の研究の発表やフィードバックを頂きました。また Director Karen 氏へのオーストラリアのハンドセラピーの歴史等のインタビューも行いました。インタビューの様子など現地で得た情報は私どもが運営する井笠・備後ハンドセラピー研究会の Youtube 内で公開されます。